

昨秋初戦敗退の屈辱バネに初優勝

日本リトルシニア全国選抜大会

第21回日本リトルシニア全国選抜野球大会の決勝が3月31日、大阪市舞洲ベースボールスタジアムで行われた。関東連盟対決となった一戦は、佐倉が横浜青葉に逆転勝ちし、春の全国選抜初優勝。昨夏に続いて、史上2チーム目の夏春連覇を成し遂げた。最優秀選手賞は、佐倉の佐藤将聖選手、敢闘賞は横浜青葉の阿部健太郎が受賞した。



野球
成し遂げた。最優秀選手賞は、佐倉の佐藤将聖選手、敢闘賞は横浜青葉の阿部健太郎が受賞した。

開き直り粘り出した。決勝、リードされている佐倉シニアの選手たちの顔に「俺たちは負けないうい」絶対勝つ」と書いてあった。1、2回戦をサヨナラ勝ち。準々決勝も3点差からの逆転サヨナラ。今大会の5試合中、4試合を1点差で勝ってきた自信だった。昨夏、1つ上の先輩たちがシニア日本選手権とジャイアンツカップの二冠を達成。しかし、新チームは昨秋、関東大会初戦となる2回戦、3-4で海老名に敗れた。それでも、昨夏の功績なども加味され、本来は出られないはずの春の選抜の出場権が舞い込んだ。周りからは「21世紀枠」だ、という声も。だが、「それは意外なほどおとなしい。選手たちは」は通過

みんなのスポーツ



白井主将が佐倉を舞った

夏春連覇



史上2チーム目の夏春連覇を決め大喜びの佐倉シニア

準V横浜青葉夏のリベンジ誓う
福田永将(中日)、下水流昂(広島)らを擁して優勝した2003年以来、12年ぶりの優勝を狙った横浜青葉は、初戦の2回戦で福生にコールド勝ちすると、3回戦で竜ヶ崎に3-1、準々決勝では関西連盟の覇者・大阪福島にも3-1。準決勝で世田谷西を破って2

〈表彰選手〉 ◇最優秀選手賞 佐藤将聖(佐倉) ◇敢闘賞 阿部健太郎(横浜青葉)	◇優秀選手賞 須藤暖人(佐) 山田拓也(横) 奥村拓馬(世田谷西) 西山翔(紀州由良)	◇ベストナイン △投手 池田徹(横) △捕手 田宮裕涼(佐) △一塁手 田村健磨(世) △二塁手 高瀬宗一郎(紀) △三塁手 佐藤仁(横) △遊撃手 田蒼太(佐) △外野手 浪川広之(佐) 飯田健太郎(横) 田中翔太郎(世)
---	---	--



MVPを獲得した佐倉・佐藤投手

直らせた」と松井進監督。冬の間に、「オレたちは弱いんだから」と練習に明け暮れ、大会でも「俺達には負けないうい」絶対勝つ」と書いてあった。1、2回戦をサヨナラ勝ち。準々決勝も3点差からの逆転サヨナラ。今大会の5試合中、4試合を1点差で勝ってきた自信だった。昨夏、1つ上の先輩たちがシニア日本選手権とジャイアンツカップの二冠を達成。しかし、新チームは昨秋、関東大会初戦となる2回戦、3-4で海老名に敗れた。それでも、昨夏の功績なども加味され、本来は出られないはずの春の選抜の出場権が舞い込んだ。周りからは「21世紀枠」だ、という声も。だが、「それは意外なほどおとなしい。選手たちは」は通過

点。本番は夏だぞ」と口をそろえた。キャプテンの白井祐翔は「初戦のサヨナラ勝ちから勢いに乗れて、どんどん粘りが出てきた。平日練習の成果が出たと思う。優勝はうれしいけど、夏の全国大会とジャイアンツカップで優勝するまでは喜ばせません」と唇をキュッと締め、早くも夏に向けて気合を入れた。平均失点2.5点未満。佐倉は6試合での総失点が11と、1試合平均は2点未満。これは背番号1の佐藤のほか須藤暖人、熊澤恭平、宮田の4投手の好投、ショート守田を中心とした鉄壁の守備によるものだ。佐藤は「接戦が多かったけど、いつも最後にみんなが打ってくれた。自分も気持ちの入ったストロークを投げられたと思います」と笑顔で話した。また、6試合24得点はさほど多くはないが、打線は勝負強さが光った。宮田、小儀純也の1、2番コンビがよく出塁し、浪川、岡、田宮の主軸が



公式HP

藤仁、山田、佐藤仁、阿部健太郎、武山佳樹、加藤駿介、重村瑠惟らがよく打った。ベストナインも受賞した飯田は「一番打者として出塁することを意識して打席に立っていた。最後に逆転されたのはまだ自分たちに足りないところがある」と話した。これからはベンチとスタンドが一体となって勝っているように頑張ります」と静かに話した。

因縁対決
オール栃木
勝で降参
り初代女王
W(東京)

△決勝
横浜青葉(関東連盟) 10000000
佐倉(関西連盟) 0000012x 31

△表裏対決
須藤暖人(佐) 山田拓也(横) 奥村拓馬(世田谷西) 西山翔(紀州由良)

△表裏対決
須藤暖人(佐) 山田拓也(横) 奥村拓馬(世田谷西) 西山翔(紀州由良)

女子軟式
関東女子中
合会主催
関東女子
どで行われ
から代表
(栃木)が
玉を破り